

(進路) 六ツ美北中学校

2年 地域の職場体験

4月～12月(24時間)

1. ねらい

本校では、将来の職業や生き方につながる3年間を通したキャリア学習に取り組んでいる。その中で、実際の職業に触れることができるように、1年生で『身近な人の職場見学』、2年生で『地域の職場体験』、3年生で『修学旅行先での職場訪問』へと発展させていく体験学習を計画している。

その流れに沿って、2年生で行う『地域の職場体験』を、時間的に余裕もてる夏休みに実施し、まとめの展示を2学期に実施した。地域の職場体験場所として、最初に毎年快く受け入れてくださっている馴染みの事業所を中心をお願いをした。残念なことに不況のあおりを受けて、閉鎖されてしまったところもあり、新規開拓の事業所にも、生徒の受け入れをお願いしなければならなかった。職場体験前の事前打ち合わせなどの機会も含めて電話の受け答えや言葉遣いのマナー指導を実施した。

2. 実践の概要

(1) 仕事に対する興味・関心の喚起

まだ遠い先のことと考えている生徒を職業選択の世界に誘うためには、職業の具体的な場面に触れさせることが第一である。多くの生徒達に人気がある職業を選び、ビデオ視聴により学習させて、感想をまとめさせた。教材として、NHKの放送番組『あしたをつかめ -平成若者仕事図鑑-』から、「男子高校生のなりたい職業」第2位の『公務員』を最初の導入に利用した。時期を置いて、厳しい修行が必要とされる『家具職人』や、足に障害のある人のために特別注文で靴を作り続けている『靴の中井』などをチョイスして、生徒の各活動に向けての意識づけにも活用した。



(2) 仕事の責任の重さを知る

自分がやりたいと感じた職業であったとしても、華やかな部分のみが伝わっており、その実態は陰に隠れていることが多い、いやになったからといってすぐに辞めてしまっていないわけではない。また逆にそれを乗り越えたときにこそ感じられる達成感や充実感というものもある。どんな仕事にも、少なからずいやなことがあり、挫折の危険性をはらんでいるものである。

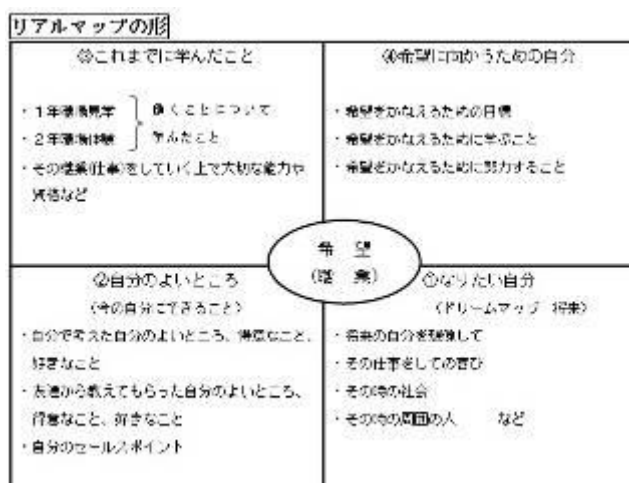
今回の職場体験は、生徒は職種を希望することはできても、具体的な職場を選択することはできない。まだまだ思い通りになることが少ない上に、『仲良しといつでも一緒』というような学校の延長のような甘えの許されない職場に放り込まれることにより、それなりの覚悟を持って取り組まなければならないのである。

(3) 職場体験の具体的な計画づくりに取り組む

仕事に対する意識づけが十分に整った段階から、体験先とのやりとりが本格的に始まる。生徒達は希望の職種ごとにグループを作り、それぞれの職種ごとに担当の教師が指導に当たった。基本的に、教師側が事前に事業所とコンタクトを取り、先方に失礼がないようにお膳立てをしたうえで、生徒達にお願いさせることになる。生徒達はグループ内で役割分担をして、日頃の協同学習の成果を発揮することができた。さらに仕事の内容を事前に理解しておくために、インターネットを通じて調べ学習をして、本番の取り組みに役立つように心構えを培った。

(4) 社会人としての礼儀・作法を学ぶ

職場体験に胸膨らませて気持ちが高ぶっている生徒や、逆に責任感を全く感じない意識の低い生徒が、本番で職場の方々に軽率な行動や発言で迷惑をかけることがないように、職場体験の直前指導のための集会を開いた。そこでは、『職場体験確認プリント』を用いて、社会での一般常識や緊急時のときの対応マニュアルを確認した。さらに事前訪問と本番の前日には、全てのグループについて、付き添い担当者との打合せの場も設けた。



(5) 実際の仕事の現場で真剣に働くことを通して学ぶ

予め自分が出向く職場や仕事の内容をインターネットで調べ、『それでもわからなかったこと』や、『さらに突っ込んで詳しく知りたい内容』を準備し、職場の方からの説明や問いかけに適切に対応できるように態勢を整えておいた。その成果もあって、職場での説明会の後の質疑応答の時間に、積極的に手を挙げ自信をもって質問する生徒が多く見られた。



(6) まとめとふりかえり

2学期に入り、総合の時間を用いて、職場体験のまとめを各自の体験時のメモやレポートを基にワークシートにまとめさせた。1年生で、『ドリームマップ』として完成させたものを、2年生ではさらにそれを発展的に再構成した『リアルマップ』に、まとめさせ、学級担任に依頼して各教室の廊下側側面に掲示してもらい、最終的な学習発表とした。

3. 今後の課題

体験終了後に十分に時間をとり、かつては発表会を設けて、各自の情報交換を積極的に行わせ、次のステップへのさらなる意識づけをしたこともあったが、今回は残念ながら時間が許さなかった。3年次には、職場訪問が計画されている。そこでは今回の反省を生かし、しっかりと報告会ができるように計画を組んでいきたい。